



子どもの心の健康講座 ⑦

子どもの精神発達 (1)

人は乳児期から老年期まで一生を通じて、素質を持ってその時々課題に向かい、人間関係や生きる環境の中で成長を続けます。それをライフサイクルといいます。今回からは、エリクソンの提唱した発達段階に基づいて、このライフサイクルの精神発達の段階をお話ししましょう。

子どもの心の発達の様子を見る時、幼少期からの体験が一生を通じて自信や自己決定、自尊感情などに関わっていることが良く分かります。

精神分析学者で医師のE・H・エリクソン（アメリカ、1902—1994年）とその妻、J・M・エリクソン（1902?—1997年）が著した晩年の主著「ライフサイクル、その完結」（日本語版・みすず書房刊）からライフサイクルの中の「乳児期から幼児期初期」をご紹介します。ライフサイクルは、それぞれの発達段階で、ある一時期の「危機」として対立

する2つの主要なテーマが提示されます（別添表）。

乳児期であれば、「基本的信頼と基本的不信」の両方を同時期に持ちつつ、信頼感を優位に持つておおくね健やかに発達していくと考えられます。表中、『心理・社会的危機』のうち、左項目が優位であることが望ましいものです。

2歳前後までは、褒めて、見守って

この時期は赤ちゃんとも母親、もしくは母親のように愛情深く世話をしてくれる人との関係が重要です。赤ちゃんは、泣いたり笑

2歳前後の幼児は、例えば自分でスプーンを持って食べ、歩き、走ろうとし、あらゆることを自分の思い通りにしたいという気持ち強いものです。自分を実感することで自信をつけていきます（自律性）。

できないことも多いので、自信をなくし自分の能力を疑い、恥ずかしさを感じてしまうことも多いのです。こぼしたり、汚したり失敗も多いですが、できるだけ優しく見守り、出来たら褒めてあげましょう。

あまりにも怒られ過ぎたり、失敗ばかりでは自信を損ね、やる気を失ってしまふので注意はほどほどに。これもバランスが大切で、「出来た」「褒められた」体験はとても重要ですが、出来なくて注意されたり怒られることで自分の失敗に気づくことも、また

必要な体験です。

児童精神科医

北畑 歩

エリクソンの心理社会的発達段階

| 発達段階 | 心理・社会的危機 | 重要な関係 | 基本的強さ | 中核的病理 |
|-------|--------------|------------------------|-------|-------|
| 乳児期 | 基本的信頼vs基本的不信 | 母親的な人物 | 希望 | 引きこもり |
| 幼児期初期 | 自律性vs恥・疑惑 | 親的な人物 | 意志 | 強迫 |
| 幼児期後期 | 自主性vs罪悪感 | 基本となる家族 | 目的 | 制止 |
| 学童期 | 勤勉性vs劣等感 | 近隣、学校 | 適格 | 不活発 |
| 青年期 | 同一性vs同一性の混乱 | 仲間集団、リーダーシップのモデル | 忠誠 | 役割拒否 |
| 前成人期 | 親密vs孤立 | 友情、性愛、競争、協力関係におけるパートナー | 愛 | 排他性 |
| 成人期 | 生殖性vs停滞性 | 分担する労働、家族 | 世話 | 拒否性 |
| 老年期 | 統合vs絶望 | “人類”、“私の種族” | 英知 | 侮蔑 |

E.H.エリクソン、J.M.エリクソン著「ライフサイクル、その完結」から